

国語 第6学年 社会教育施設へ行こう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある4月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「この施設ではどんな資料を確かめられるか」を問い、社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画する。施設と資料の活用計画の初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)オ	オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、読書が考えを広げることに役立つと気づき、選んだ本と自分の関心を結び付けている。思考・判断・表現では、社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画する。交流や試行の前後を比べ、施設と資料の活用計画を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①読書が考えを広げることに役立つと気づき、選んだ本と自分の関心を結び付けている。〔知識及び技能〕(3)オ	①「読むこと」において、社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画している。(C(1)カ)	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画する。 ○この施設ではどんな資料を確かめられるかを考え、最初の答えとその理由を残す。	知①・思①（発言・学習記録）
第2次	2	○友達の説明と比べ、施設と資料の活用計画を見直す。 ○別の語句や場面でも今回の考え方を使い、直した理由を伝える。	思①・態①（見直しの記録）

本時の案

本時の目標：社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画することができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認め、今日使う教材や資料を準備する。 ○「この施設ではどんな資料を確認められるか」 【めあて】目的に合う施設と資料の活用について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・同じテーマでも施設によって得られる情報が違う。 ・どこを確認めれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。施設名だけで調べられる内容を決める姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画する。 3 本文や資料のどこからそう考えたかを示し、「この施設ではどんな資料を確認められるか」について伝え合う。 4 友達と異なる点を本文や資料で確かめ、読みや説明を見直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じテーマでも施設によって得られる情報が違う。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	公式案内や蔵書検索を使い、利用条件と資料の範囲を確認める。知識・技能では、読書が考えを広げることに関わり、気づき、選んだ本と自分の関心を結び付けている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画している。(C(1)力)(本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明)
まとめ (分)	5 施設と資料の活用計画を確認め、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】本は題名や紹介、内容を確認めて選ぶことで、自分の関心や読む目的と結び付く。 6 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。この施設ではどんな資料を確認められるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（施設と資料の活用計画と実際の言葉の使用）・態①（単元を通じた試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には目的に合う施設と資料の活用を確認める語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に施設と資料の活用計画で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後に使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまずきやすい所と手当て

予想する難しさは、施設名だけで調べられる内容を決めることである。公式案内や蔵書検索を使い、利用条件と資料の範囲を確かめる。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

施設と資料の活用計画

「この施設ではどんな資料を確かめられるか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。公式案内や蔵書検索を使い、利用条件と資料の範囲を確かめるための補助欄も用意する。

見直しの理由を記すカード

初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_6_202412.docx）／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口（<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>）／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編（https://www.mext.go.jp/content/20220606_mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf）／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重